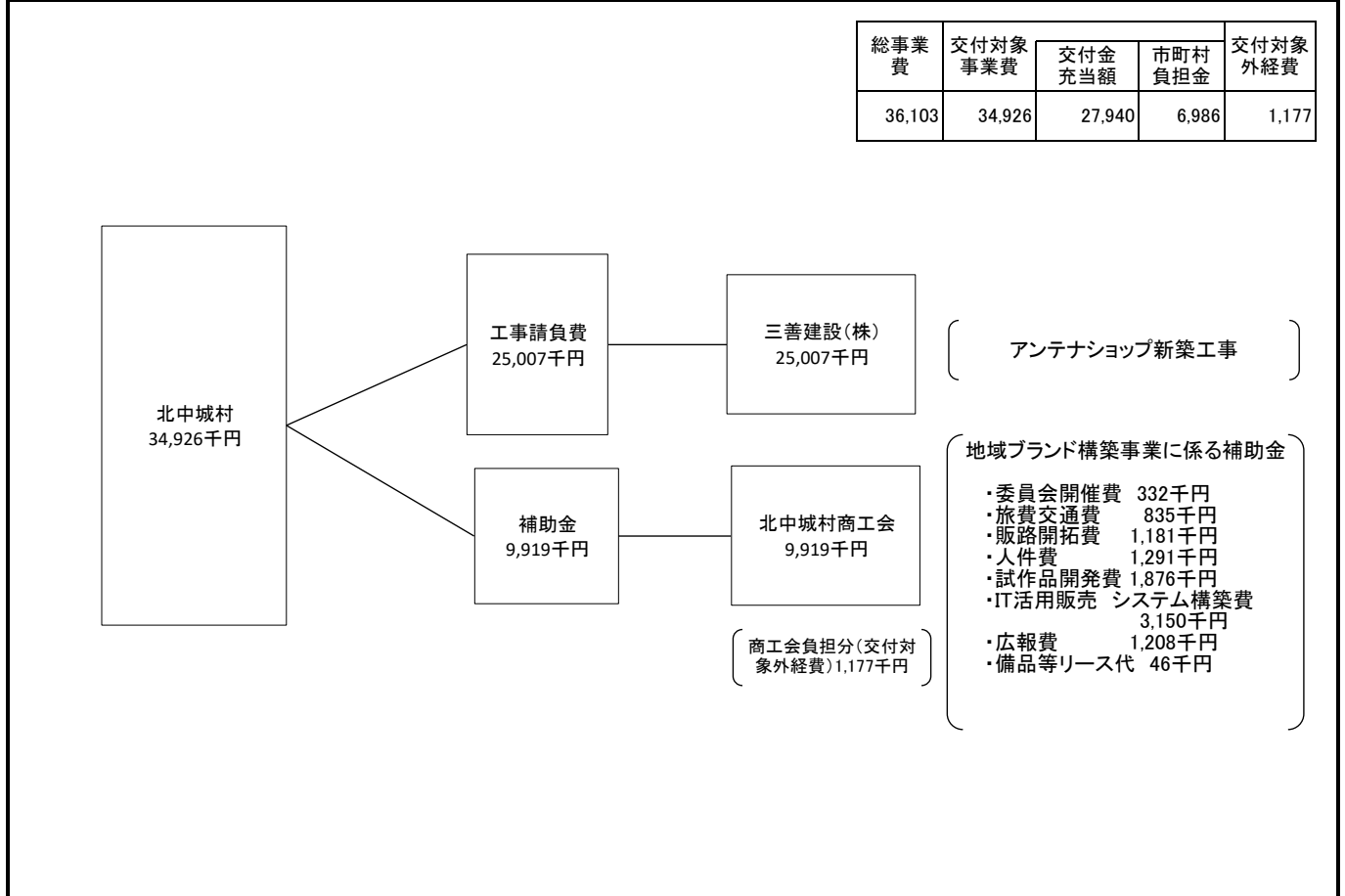


市町村名		北中城村					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	産業振興、担い手育成を図ることを目指し、農水産物資源を活かし付加価値を高めるための北中城村独自のブランド化に向けた商品開発を行い、商品選定委員会で選定された特産品の販売拡大や県外物産フェアへの出店を行うとともに、地域特産品販売所(アンテナショップ)の建築工事を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	35,152	-			
		(b) 予算現額	35,152	-			
		(c) 増減額(b-a)	0	-			
		(d) 前年度繰越額	-	25,232			
		A. 計(b+d)	35,152	25,232			
	B. 執行済額		9,919	25,007			
	うち交付金充当額		7,935	20,005			
	次年度繰越額		25,232				
	執行率(%) (B/A)		28.2%	99.1%			
予算の状況の説明		地域特産品販売所(アンテナショップ)の工事については、設置場所の選定及び漁業関係者との協議に不測の日数を要し、それによる建物構造の変更に伴う工事期間の延長が生じたことから、25年度へ繰越となった。そのため24年度においては、執行率が低いながらも全体的な事業執行は99.1%で、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度(5-①)	26年度(4-①)	27年度(4-③)	
	・ブランディング推進委員会開催数:4回	目標	(委員会:4回)	()	()	()	
		実績	全体委員会:4回				
	・PR活動回数:2回	目標	(PR活動:2回)	()	()	()	
		実績	PR活動:3回				
	・地域特産品販売所の工事着手	目標	(工事着手)	()	()	()	
実績		工事着手					
達成状況説明	24年度は地域ブランド構築事業の基礎体制づくりとして、村内各組織、事業者等の情報共有体制の整備を進め、北中城村ブランディング委員会(6人)を設置、委員会4回、ワーキング委員会3回を実施した。具体的な取り組みとして、観光マッチング事業(福岡・大分)へ参加し、今後のプロモーションについての指標となった。東京においては村の特産品であるアーサの販路の可能性についてサミットにて試食販売を行い、専門家(マーケティングフォースジャパン)アドバイスも受けることができた。また、沖縄県産品の売れ筋状況を知るため、銀座わしたショップ、観光PRのためにOCVB東京事務所へも行くことができ、次の展開への活路が見られた。年度の仕上げとして行われたシンポジウムにおいては村民へ事業の成果説明と今後の期待について声を聞くことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度(5-①)	26年度(4-①)	目標値(30年度)
	・地域特産品販売所の工事着手	目標	()	(工事着手)	()	()	()
		実績		工事着手			
	・PR活動回数:2回	目標	()	(PR活動:2回)	()	()	()
		実績		PR活動:3回			
	【参考指標】北中城ブランド商品販売額(食品類)(千円)	目標	()	(-)	600	(1,200)	(2,500)
		実績		-	205	1546	1,717
	【参考指標】北中城ブランド商品販売額(雑貨類)(千円)	目標	()	(-)	100	(200)	(800)
		実績		-	10	800	0
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・【北中城村ブランド商品販売額】の食品類については、これまでアーサ(ヒトエグサ)を原料とした商品開発を行っていたが、不漁による原料の確保や原価等の調整に苦慮したことから、生産廃止となった商品があり、H30には販売額を下回ったものの、新たにパッションフルーツを使用した商品開発に取り組んだことで、成果目標を一部達成した。 ・【北中城村ブランド商品販売額】の雑貨類については、オリジナルガラス玉の商品を販売していたが、制作にかかる費用等が販売単価を圧迫したため収益が上がり、生産終了となった。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、不漁による生産量の不足が懸念されることや、高額な原材料の販売価格への転嫁等により、安定した販売体制が整わないことにより生産終了となった商品がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、ピューレ状に加工することで、商品化しやすいメリットがあるが、村内での生産量が少なく原料の確保が課題である。 	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、原料確保および価格調整等に苦慮している中で、継続した商品のブラッシュアップ化を図る必要がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、原料の確保が必要となるため、生産者や関係機関(漁業組合、JAおきなわ等)との連携強化、事前調整により、生産量の向上、販路の調整等により、原材料の確保に努める必要がある。
	<p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルガラス玉については、商品の売上げは順調だったものの、制作に手間がかかることから収益が上がりず、生産を終了している。 	<p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益が伸び悩んだことから、本商品の販売を取りやめる結果となった。

今後の取り組み方針	
<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、本事業で開発した既存商品のブラッシュアップ化による安定した販売体制を支援する。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、商品加工するためのパッションフルーツの確保及びパッションフルーツピューレの増産に取り組む。 <p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルガラス玉の販売については販売事業者の経営圧迫に配慮し、生産終了とする。 <p>【地域ブランド事業の取り組み方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は関係機関との連携が好調な食品類、特に「パッションフルーツ」の商品開発について、取り組みを強化する。 	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



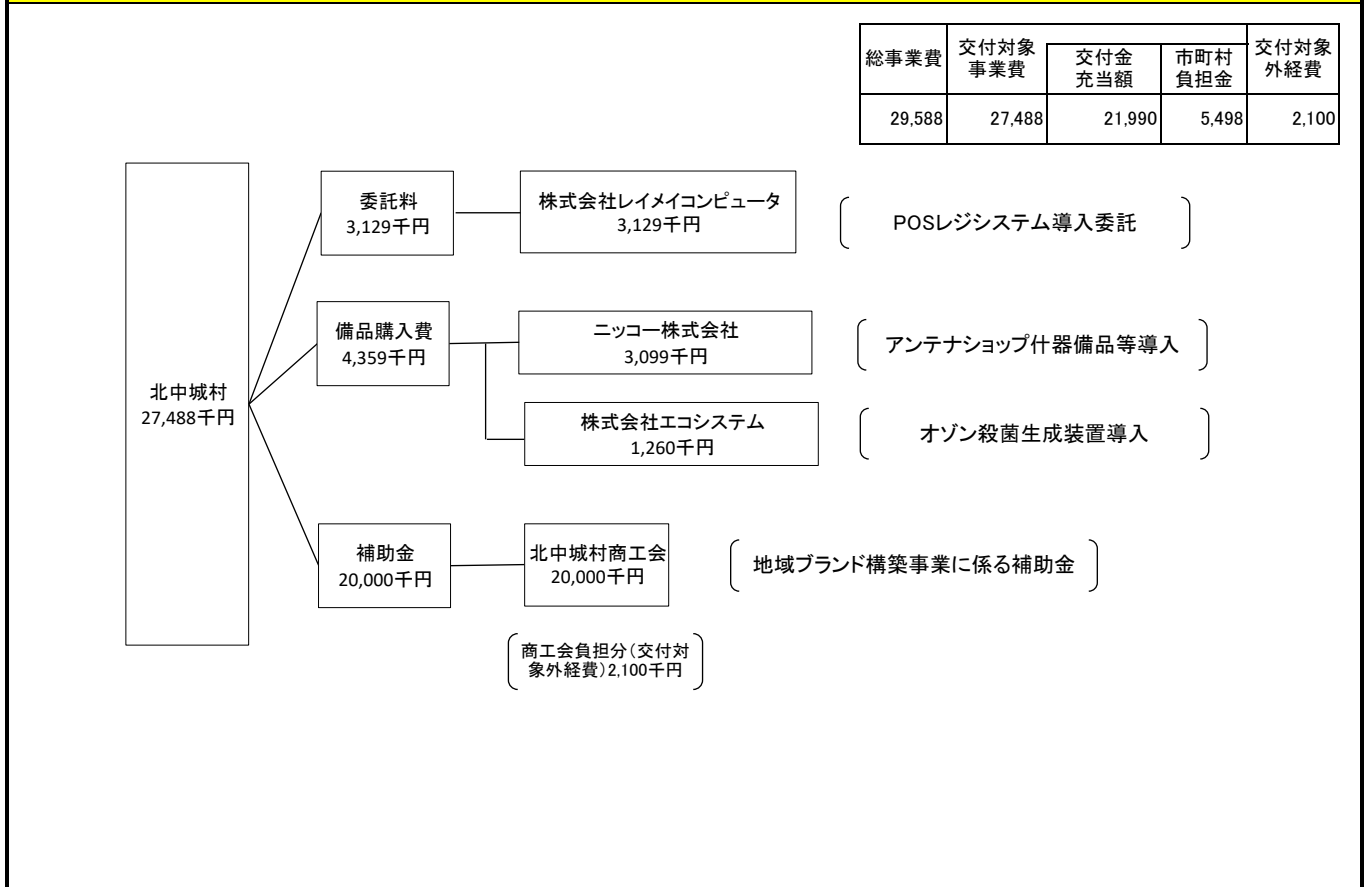
資金の流れ点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・各産業分野が加入する商工会目らが地域活性化に手を挙げており、商工会を中心とすることで地域事業者が安心して事業に関わることができることから、活性化に対する補助とした。 ・予算等は計画に沿って支出されており、規模も見合っている。 ・受益者負担も10%以上あり、妥当である。 ・使途も目的に即しており、必要なものとなっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名		北中城村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	地域ブランド構築事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	産業振興、担い手育成を図ることを目指し、農水産物資源を活かし付加価値を高めるための北中城村独自のブランド化に向けた商品開発を行い、商品選定委員会で選定された特産品の販売拡大や県外物産フェアへの出店を行う事業。25年度は商品・ロゴデザインの開発と地域特産品販売所の建設を主に取り組んだ。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,920	-	19,800		
	(b) 予算現額	35,152	-	29,700			
	(c) 増減額(b-a)	15,232	-	9,900			
	(d) 前年度繰越額	-	25,232	-			
	A. 計(b+d)	35,152	25,232	29,700			
	B. 執行済額	9,919	25,007	27,488			
	うち交付金充当額	7,935		21,990			
	次年度繰越額	25,232					
	執行率(%) (B/A)	28.2%	99.1%	92.6%			
予算の状況の説明	不要額2,212千円については、委託費、備品購入費の入札執行残であり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度(5-①)	25年度	26年度(4-①)	27年度(4-③)	
	ブランディング推進委員会開催数:5回	目標	(委員会:4回)	(委員会:5回)	()	()	
		実績	全体委員会:4回 ワーキング委員会3回	委員会:4回 作業部会12回			
	県外商談・PR活動回数:4回	目標	(PR活動:2回)	(PR活動4回)	()	()	
		実績	PR活動:県外2回 県内先進地視察1回	PR活動:県外3回、 県内1回			
	新商品の開発37アイテム以上	目標	(-)	(新商品:3品)	()	()	
		実績	-	新商品:7品			
	アンテナショップ什器類(19品目)の整備	目標	(-)	(什器類:19品目)	()	()	
		実績	-	什器類:19品目			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・目標であったブランディング委員会5回は4回とし、1回は本事業の観光の部分について琉球大学と意見交換会に変更。新商品の開発については、12回の作業部会を開催し、目標3商品に対して7商品を開発できた。 ・PR活動については福岡商工会議所の主催する観光マッチング事業へ参加し、県外4社、海外2社の旅行社と商談を実施。PRブースにおいては北中城村をDVDで紹介した。物産フェアについては開発した商品を沖縄の産業まつり(奥武山公園)、ニッポン全国物産展(池袋サンシャインシティ)で販売し、売り上げ目標40万に対し、84.6万円と目標値の2倍を達成した。 ・アンテナショップにおける、什器類19品目の導入について、目標どおり設置することができ、全体として、活動目標のほとんどを達成することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度(5-①)	25年度	26年度(4-①)	目標値(30年度)
	販路拡大の為の県外物産フェア参加(10品目販売モニター調査、販売額目標40万円)	目標	()	(-)	(物産フェア:40万円 10品目販売モニター調査)	()	()
		実績	/	-	物産フェア:84.6万円 8品目販売モニター調査	/	/
	量販店等への取引契約(チェーン展開する店舗1以上)	目標	()	(-)	(契約:1社)	()	()
		実績	/	-	契約:0社	/	/
	新商品の開発3アイテム以上	目標	()	(-)	(新商品:3品)	()	()
		実績	/	-	新商品:7品	/	/
	アンテナショップ什器類(19品目)の整備	目標	()	(-)	(什器:19品目)	()	()
		実績	/	-	什器:19品目	/	/
	【参考指標】 北中城ブランド商品販売額(食品類)(千円)	目標	()	(-)	600	(1,200)	(2,500)
実績	/	-	205	1,546	1,717		
【参考指標】 北中城ブランド商品販売額(雑貨類)(千円)	目標	()	(-)	100	(200)	(800)	
実績	/	-	10	800	0		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・【北中城村ブランド商品販売額】の食品類については、これまでアーサ(ヒトエグサ)を原料とした商品開発を行っていたが、不漁による原料の確保や原価等の調整に苦慮したことから、生産廃止となった商品があり、H30には販売額を下回ったものの、新たにパッションフルーツを使用した商品開発に取り組んだことで、成果目標を一部達成した。 ・【北中城村ブランド商品販売額】の雑貨類については、オリジナルガラス玉の商品を販売していたが、制作にかかる費用等が販売単価を圧迫したため収益が上がらず、生産終了となった。 						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、不漁による生産量の不足が懸念されることや、高額な原材料の販売価格への転嫁等により、安定した販売体制が整わないことにより生産終了となった商品がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、ピューレ状に加工することで、商品化しやすいメリットがあるが、村内での生産量が少なく原料の確保が課題である。 	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、原料確保および価格調整等に苦慮している中で、継続した商品のブラッシュアップ化を図る必要がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、原料の確保が必要となるため、生産者や関係機関(漁業組合、JAおきなわ等)との連携強化、事前調整により、生産量の向上、販路の調整等により、原材料の確保に努める必要がある。
	<p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルガラス玉については、商品の売上げは順調だったものの、制作に手間がかかることから収益が上がり、生産を終了している。 	<p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益が伸び悩んだことから、本商品の販売を取りやめる結果となった。

今後の取り組み方針	
<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、本事業で開発した既存商品のブラッシュアップ化による安定した販売体制を支援する。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、商品加工するためのパッションフルーツの確保及びパッションフルーツピューレの増産に取り組む。 <p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルガラス玉の販売については販売事業者の経営圧迫に配慮し、生産終了とする。 <p>【地域ブランド事業の取り組み方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は関係機関との連携が好調な食品類、特に「パッションフルーツ」の商品開発について、取り組みを強化する。 	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 使途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・各産業分野が加入する商工会自らが地域活性化に手を挙げており、商工会を中心とすることで地域事業者が安心して事業に関わることができることから、活性化に対する補助とした。 ・予算等は計画に沿って支出されており、規模も見合っている。 ・受益者負担も10%以上あり、妥当である。 ・使途も目的に即しており、必要なものとなっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名		北中城村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
	担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成	
事業内容	産業振興、担い手育成を図ることを目指し、農水産物資源を活かし付加価値を高めるための北中城村独自のブランド化に向けた商品開発を行うとともに、商品選定委員会で選定された特産品の販売拡大や県外物産フェアへの出店を行う。また、本村の観光及びブランドプロモーションのためのパンフレットを作成し、PR強化を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	35,152		19,800	16,200	
		(b) 予算現額	35,152	-	29,700	22,032	
		(c) 増減額(b-a)		-	9,900	5,832	
		(d) 繰越額	-	25,232	-	-	
	A. 計(b+d)		35,152	25,232	29,700	22,032	
	B. 執行済額		9,919	25,007	27,488	19,247	
	うち交付金充当額		7,935	20,005	21,990	15,397	
	次年度繰越額		25,232	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		28.2%	99.1%	92.6%	87.4%	
予算の状況の説明		不用額2,785千円については、当初計画の一部変更に伴う補助額変更であり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度(5-①)	25年度(5-①)	26年度	27年度(4-③)	
	ブランディング推進委員会開催数:5回	目標	(委員会:4回)	(委員会:5回)	(5回)	()	
		実績	全体委員会:4回 ワーキング委員会:3回	全体委員会:4回 ワーキング委員会:12回	5回		
	県外商談	目標	(県外商談:2回)	(県外商談:2回)	(県外商談:2回)	()	
		実績	県外商談:2回 県内先進地視察1回	県外商談:3回 県内先進地視察1回	県外商談:3回		
	PR活動回数:2回	目標	(PR活動:2回)	(PR活動:2回)	(PR活動:2回)	()	
		実績	2回	3回	3回		
	パンフレット作成:3万部	目標	()	()	(3万部)	()	
		実績	-	-	7万7千部		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランディング推進委員会では、事業計画に即し5回実施し、本村の観光PRとしてプロモーションビデオを製作。 ・県内では村まつりの出店や沖縄の産業まつりへ参加、県外ではイオンモール幕張や福岡で村の物産をPRできた。 ・県外商談は、東京、福岡2回の計3回実施、北中城村ブランドの発信に努めた。 ・外国人観光客の受け入れに対応するため、英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語の観光パンフレットを製作。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度(5-①)	26年度	27年度(4-③)	目標値(30年度)
	販路拡大の為の県外物産フェア参加(10品目販売モニター調査、販売額目標40万円)	目標	()	(物産フェア:40万円 10品目販売モニター調査)	(物産フェア:40万円 10品目販売モニター調査)	()	()
		実績			物産フェア:84.6万円 8品目販売モニター調査	物産フェア:45.7万円 5品目販売モニター調査	
	量販店等への取引契約(チェーン展開する店舗1以上)	目標	()	(契約:1社)	(契約:1社)	()	()
		実績		契約:0社	契約:0社		
	新商品の開発2アイテム	目標	()	(3品)	(2品)	()	()
		実績		7品	4品		
	ポータルサイトアクセス数10%増(H25年度60,000アクセス)	目標	()	()	(10%増)	()	()
		実績		60,000アクセス	163,000アクセス		
	【参考指標】北中城ブランド商品販売額(食品類)(千円)	目標	()	600	1,200	(1,500)	(2,500)
実績			205	1,546		1,717	
【参考指標】北中城ブランド商品販売額(雑貨類)(千円)	目標	()	100	200	(500)	(800)	
	実績		10	800		0	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・【北中城村ブランド商品販売額】の食品類については、これまでアーサ(ヒトエグサ)を原料とした商品開発を行っていたが、不漁による原料の確保や原価等の調整に苦慮したことから、生産廃止となった商品があり、H30には販売額を下回ったものの、新たにパッションフルーツを使用した商品開発に取り組んだことで、成果目標を一部達成した。 ・【北中城村ブランド商品販売額】の雑貨類については、オリジナルガラス玉の商品を販売していたが、制作にかかる費用等が販売単価を圧迫したため収益が上がり、生産終了となった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、不漁による生産量の不足が懸念されることや、高額な原材料の販売価格への転嫁等により、安定した販売体制が整わないことにより生産終了となった商品がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、ピューレ状に加工することで、商品化しやすいメリットがあるが、村内での生産量が少なく原料の確保が課題である。 	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、原料確保および価格調整等に苦慮している中で、継続した商品のブラッシュアップ化を図る必要がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、原料の確保が必要となるため、生産者や関係機関(漁業組合、JAおきなわ等)との連携強化、事前調整により、生産量の向上、販路の調整等により、原材料の確保に努める必要がある。
	<p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルガラス玉については、商品の売上げは順調だったものの、制作に手間がかかることから収益が上がり、生産を終了している。 	<p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益が伸び悩んだことから、本商品の販売を取りやめる結果となった。

今後の取り組み方針

【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】

- ・アーサ関連商品については、本事業で開発した既存商品のブラッシュアップ化による安定した販売体制を支援する。
- ・パッションフルーツを活用した商品開発については、商品加工するためのパッションフルーツの確保及びパッションフルーツピューレの増産に取り組む。

【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】

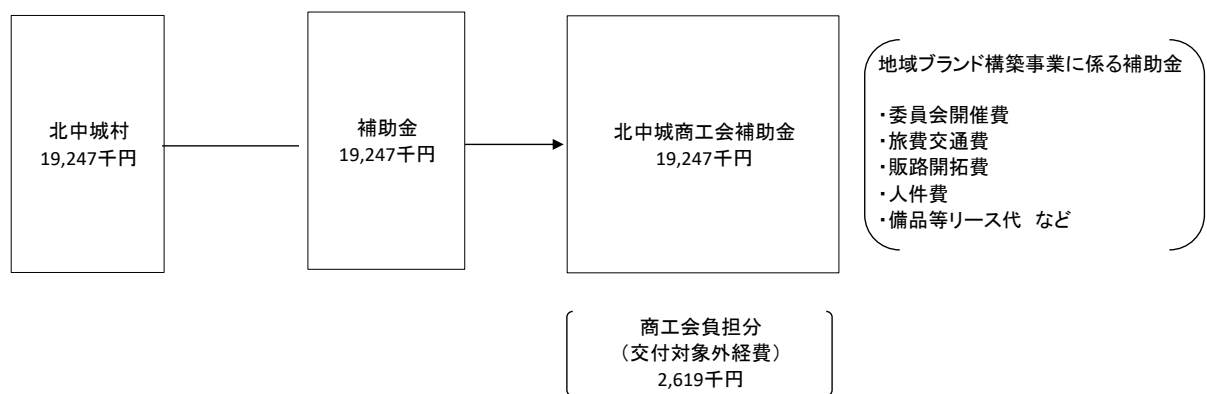
- ・オリジナルガラス玉の販売については販売事業者の経営圧迫に配慮し、生産終了とする。

【地域ブランド事業の取り組み方針】

- ・今後は関係機関との連携が好調な食品類、特に「パッションフルーツ」の商品開発について、取り組みを強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
21,866	19,247	15,397	3,850	2,619



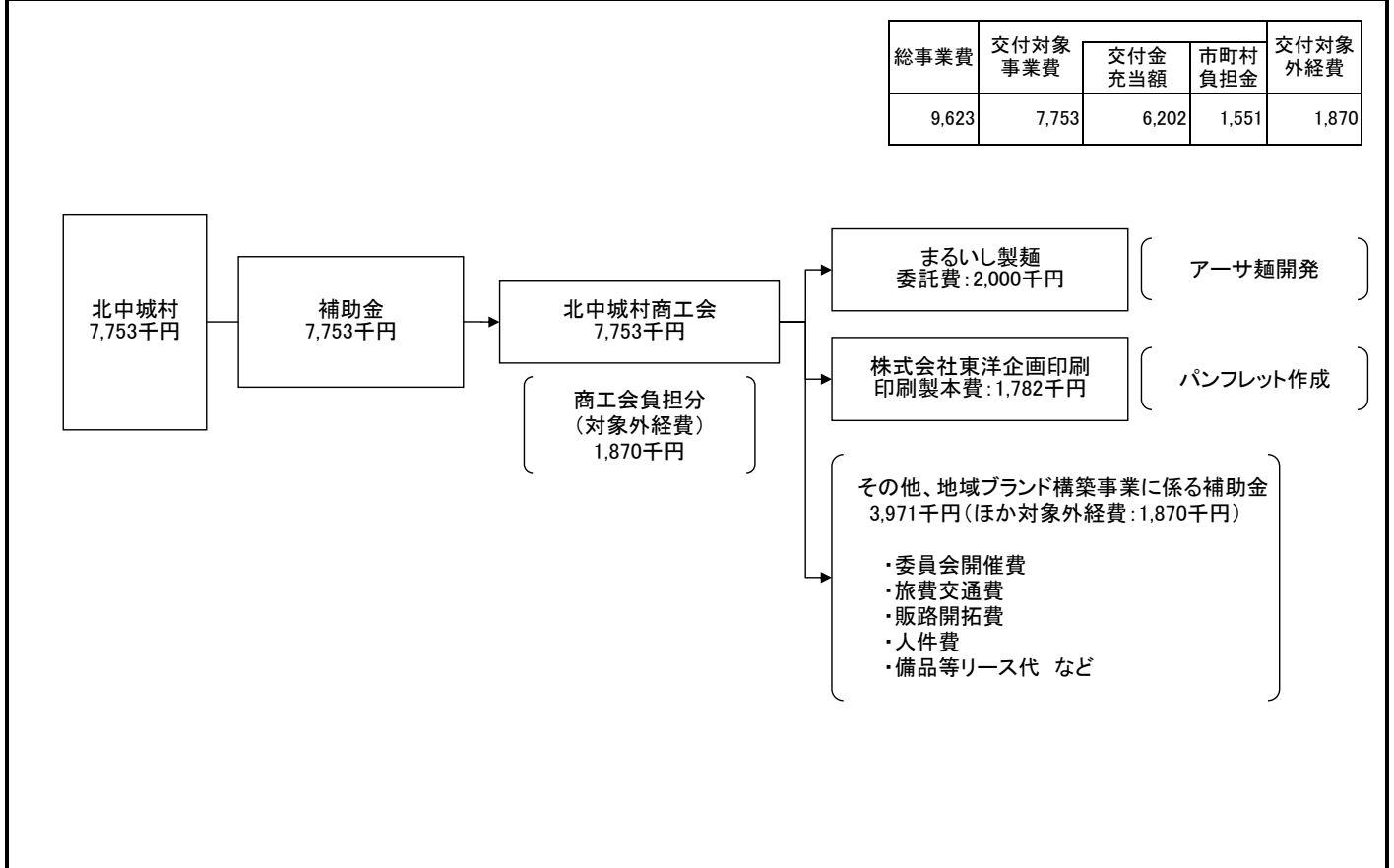
資金の流 れ、費 目・使 途の 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・各産業分野が加入する商工会自らが地域活性化に手を挙げており、商工会を中心とすることで地域事業者が安心して事業に関わることができることから、活性化に対する補助とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については事業計画に即した予算計上となされ、計画に即して予算執行がなされている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担も10%以上あり、妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・予算執行については、地域ブランド構築に必要な費目・使途であり、適正に執行されていると考える。

市町村名		北中城村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-③	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部課名	企画振興課		事業実施 (予定)年度	平成24年～平成33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成		
事業内容	H26年度までに考案した商品のさらなるブラッシュアップを行うとともに、特産品と合わせて販売拡大や県外物産フェアへの出店を行う。また、村内事業所の自主性を高めるために公募型の商品開発も行い、地域ブランド発信事業者を増やす取り組みを行う。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の 状況	(a)当初予算額	35,152			19,800	16,200	9,440
		(b)予算現額	35,152			29,700	22,032	10,488
		(c)増減額(b-a)	0	0	9,900	5,832	1,048	
		(d)繰越額	-	25,232		-	-	
		A.計(b+d)	35,152	25,232	29,700	22,032	10,488	
	B.執行済額		9,919	25,007	27,488	19,247	7,753	
	うち交付金充当額		7,935	20,005	21,990	15,397	6,202	
	次年度繰越額		25,232	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		28.2%	99.1%	92.6%	87.4%	73.9%	
予算の状況の説明		不要額864千円については、当初計画の一部変更に伴う補助額変更であり、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	公募型商品開発の募集	目標	(4回)	(5回)	(5回)	(公募型商品開発の募集)		
		実績	4回	4回	5回	募集なし		
	県外商談(1回)	目標	(2回)	(2回)	(2回)	(1回)		
		実績	2回	3回	3回	2回		
	PR活動回数(2回)	目標	(2回)	(2回)	(2回)	(2回)		
実績		2回	3回	3回	2回			
パンフレット作成(2万部)	目標	()	()	(30,000部)	(20,000部)			
	実績			77,000部	10,000部			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・公募型商品開発の募集については、原材料となるアーサ麵の製造が遅れ十分な公募期間を確保できず、次年度実施する事とした。 ・県外では東京での北中城村物産展開催及び全国物産展へ参加、当事業での開発商品を中心に販売活動を行った。 ・県内では村まつりの出店や沖縄の産業まつりへの参加、今年度開発したアーサ麵のテスト販売を行った。 ・村特産品であるアーサについてのパンフレットを当事業での成果報告を兼ねる形で作成し配布。ページ数を増し、予算に合わせ発行部数を減した。 							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (30年度)	
	販路拡大の為の県外物産展参加 (販売額目標40万円)	目標	()	(400千円)	(400千円)	(400千円)	(400千円)	
		実績		846千円	457千円	775千円		
	新商品の開発4アイテム	目標	()	(3品)	(2品)	(4品)	(計15品)	
		実績		7品	4品	1品		
	ポータルサイトアクセス数10%増	目標	()	(-)	(66,000)	(10%増)	(129,000)	
		実績		60,000	163,000	5.5%増		
	【参考指標】 北中城村ブランド商品販売額(食品類)	目標	()	(600千円)	(1,200千円)	(1,500千円)	(2,500千円)	
実績			205千円	1,546千円	4,686千円	1,717千円		
【参考指標】 北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)	目標	()	(100千円)	(200千円)	(500千円)	(800千円)		
	実績		10千円	800千円	1,000千円	0千円		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・【北中城村ブランド商品販売額】の食品類については、これまでアーサ(ヒトエグサ)を原料とした商品開発を行っていたが、不漁による原料の確保や原価等の調整に苦慮したことから、生産廃止となった商品があり、H30には販売額を下回ったものの、新たにパッションフルーツを使用した商品開発に取り組んだことで、成果目標を一部達成した。 ・【北中城村ブランド商品販売額】の雑貨類については、オリジナルガラス玉の商品を販売していたが、制作にかかる費用等が販売単価を圧迫したため収益が上がらず、生産終了となった。 							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】 ・アーサ関連商品については、不漁による生産量の不足が懸念されることや、高額な原材料の販売価格への転嫁等により、安定した販売体制が整わないことにより生産終了となった商品がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、ピューレ状に加工することで、商品化しやすいメリットがあるが、村内での生産量が少なく原料の確保が課題である。	【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】 ・アーサ関連商品については、原料確保および価格調整等に苦慮している中で、継続した商品のブラッシュアップ化を図る必要がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、原料の確保が必要となるため、生産者や関係機関(漁業組合、JAおきなわ等)との連携強化、事前調整により、生産量の向上、販路の調整等により、原材料の確保に努める必要がある。
	【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】 ・オリジナルガラス玉については、商品の売上げは順調だったものの、制作に手間がかかることから収益が上がらず、生産を終了している。	【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】 ・収益が伸び悩んだことから、本商品の販売を取りやめる結果となった。

今後の取り組み方針	
【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】 ・アーサ関連商品については、本事業で開発した既存商品のブラッシュアップ化による安定した販売体制を支援する。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、商品加工するためのパッションフルーツの確保及びパッションフルーツピューレの増産に取り組む。 【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】 ・オリジナルガラス玉の販売については販売事業者の経営圧迫に配慮し、生産終了とする。 【地域ブランド事業の取り組み方針】 ・今後は関係機関との連携が好調な食品類、特に「パッションフルーツ」の商品開発について、取り組みを強化する。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○商工会を中心とすることで地域事業者が安心して事業に係ることができることから、活性化に対する補助とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については事業計画に即した予算計上がなされ、計画に即して予算執行がなされている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担も10%以上あり、妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

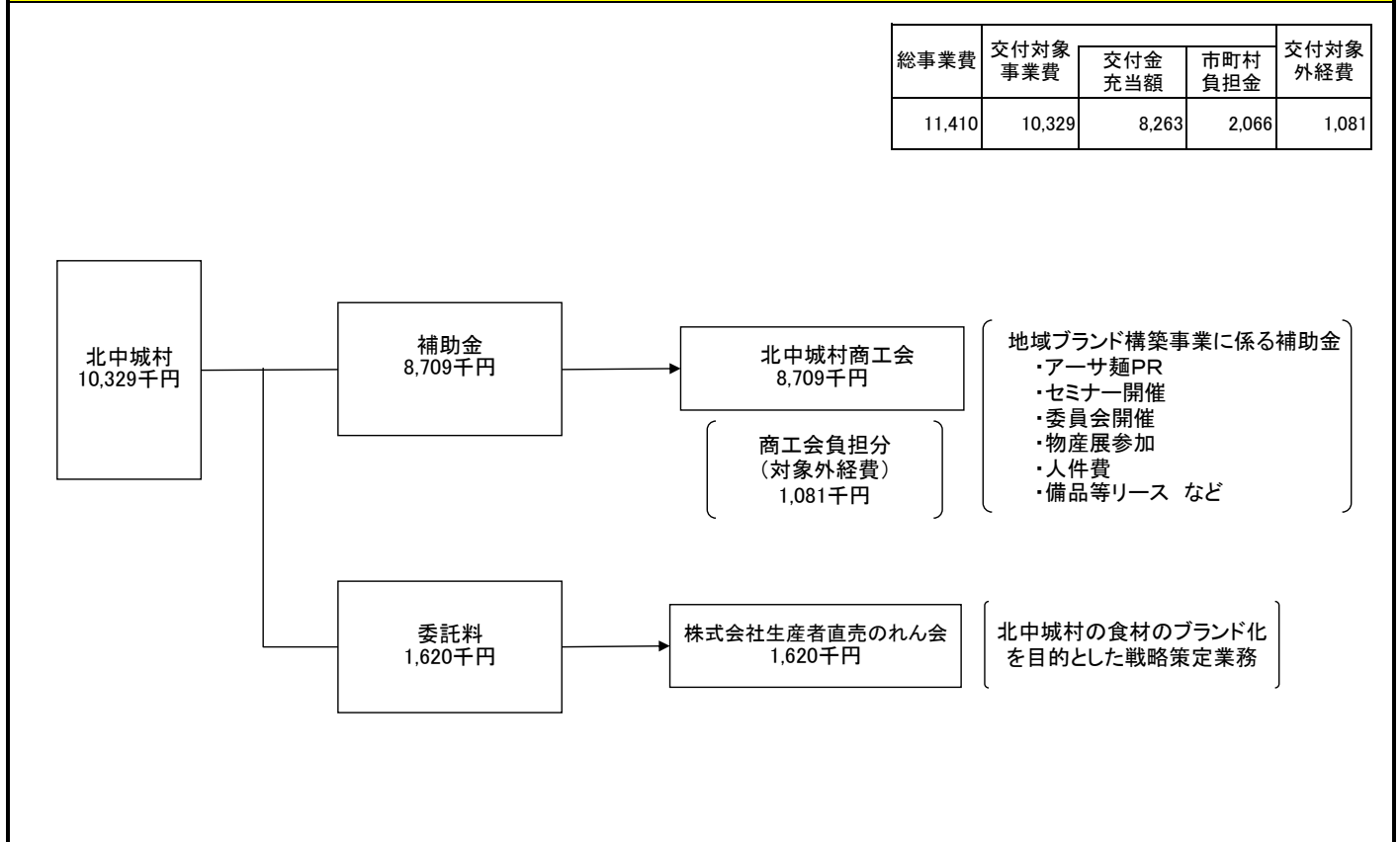
市町村名		北中城村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	地域ブランド構築事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	平成27年度に開発したアーサめん類のブラッシュアップや販路確保を行う。また、過年度(平成24~26年度)で開発した製品の販路開拓を目指しマーケティング及び売れる商品づくりのセミナーを開催する。これら商品の紹介や販売を県内外の物産展を中心に行う事で北中城村のブランド構築を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	—	19,800	16,200	9,440	9,677
		(b) 予算現額	—	29,700	22,032	10,488	12,373
		(c) 増減額(b-a)	—	9,900	5,832	1,048	2,696
		(d) 繰越額	25,232	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		25,232	29,700	22,032	10,488	12,373
	B. 執行済額		25,007	27,488	19,247	7,753	10,329
	うち交付金充当額		20,005	21,990	15,397	6,202	8,263
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.1%	92.6%	87.4%	73.9%	83.5%
予算の状況の説明		・新たな取組みとして、食材のブランド化を目的とした調査及び戦略を策定するため、委託料の増額補正を行った。 ・不用額2,044千円については、商工会に対する補助金の精算に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	開発した特産品取扱店の開拓	目標	(開拓)	()	()	()	
		実績	1店舗開拓				
	セミナー開催(2回)	目標	(2回)	()	()	()	
		実績	4回				
	県内外での物産展実施(2回)	目標	(2回)	()	()	()	
		実績	3回				
	食材のブランド化を目的とした村産品食材の調査及び戦略の検討	目標	(調査及び検討の実施)	()	()	()	
		実績	調査及び検討の実施				
達成状況説明		・より幅広い業種に取り扱ってもらえるよう、27年度事業において開発したアーサ麺(ゆで麺)のバリエーションを増やしアーサ麺(生麺)を開発した。また、発注する際の最小ロット数の問題を解決し小規模飲食店等でも開発商品を取り扱うことができるよう、村アンテナショップでアーサ麺を仕入れ、そこから各店舗等へ商品を販売する体制を整えた。 ・セミナーはHP作成セミナー、マーケティングセミナー等計4回のセミナーを開催した。 ・県内外での物産展は県内(ありんくりん市)、県外(ニッポン全国物産展、銀座わしたショップ北中城村フェア)での開催・出展を行った。 ・食材のブランド化を目的とした村産品食材の調査及び戦略の検討については、プロポーザル方式で業者を選定し、調査・戦略の検討を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	テストマーケティング参加店舗 3店舗	目標	()	(3店舗)	()	()	()
		実績		6店舗			
	販売店舗数 3店舗	目標	()	(3店舗)	()	()	()
		実績		6店舗			
	セミナー参加事業者数 20事業者	目標	()	(20事業者)	()	()	()
		実績		61事業者			
	物産展での参加事業者数 5事業者	目標	()	(5事業者)	()	()	()
		実績		11事業者			
	食材のブランド化を目的とした村産品食材の調査及び戦略策定完了	目標	()	(策定完了)	()	()	()
実績			策定完了				
【参考指標】北中城村ブランド商品販売額(食品類)	目標	()	(-)	(-)	(2,500千円)	(2,500千円)	
	実績		1,377千円	2,406千円	1,717千円	1,717千円	
【参考指標】北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)	目標	()	(-)	(-)	(800千円)	(800千円)	
	実績		1,425千円	-	0千円	0千円	
進捗状況説明		・【北中城村ブランド商品販売額】の食品類については、これまでアーサ(ヒトエグサ)を原料とした商品開発を行っていたが、不漁による原料の確保や原価等の調整に苦慮したことから、生産廃止となった商品があり、H30には販売額を下回ったものの、新たにパッションフルーツを使用した商品開発に取り組んだことで、成果目標を一部達成した。 ・【北中城村ブランド商品販売額】の雑貨類については、オリジナルガラス玉の商品を販売していたが、制作にかかる費用等が販売単価を圧迫したため収益が上がらず、生産終了となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】 ・アーサ関連商品については、不漁による生産量の不足が懸念されることや、高額な原材料の販売価格への転嫁等により、安定した販売体制が整わないことにより生産終了となった商品がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、ピューレ状に加工することで、商品化しやすいメリットがあるが、村内での生産量が少なく原料の確保が課題である。	【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】 ・アーサ関連商品については、原料確保および価格調整等に苦慮している中で、継続した商品のブラッシュアップ化を図る必要がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、原料の確保が必要となるため、生産者や関係機関(漁業組合、JAおきなわ等)との連携強化、事前調整により、生産量の向上、販路の調整等により、原材料の確保に努める必要がある。
	【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】 ・オリジナルガラス玉については、商品の売上げは順調だったものの、制作に手間がかかることから収益が上がらず、生産を終了している。	【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】 ・収益が伸び悩んだことから、本商品の販売を取りやめる結果となった。

今後の取り組み方針

【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】 ・アーサ関連商品については、本事業で開発した既存商品のブラッシュアップ化による安定した販売体制を支援する。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、商品加工するためのパッションフルーツの確保及びパッションフルーツピューレの増産に取り組む。
【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】 ・オリジナルガラス玉の販売については販売事業者の経営圧迫に配慮し、生産終了とする。
【地域ブランド事業の取り組み方針】 ・今後は関係機関との連携が好調な食品類、特に「パッションフルーツ」の商品開発について、取り組みを強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



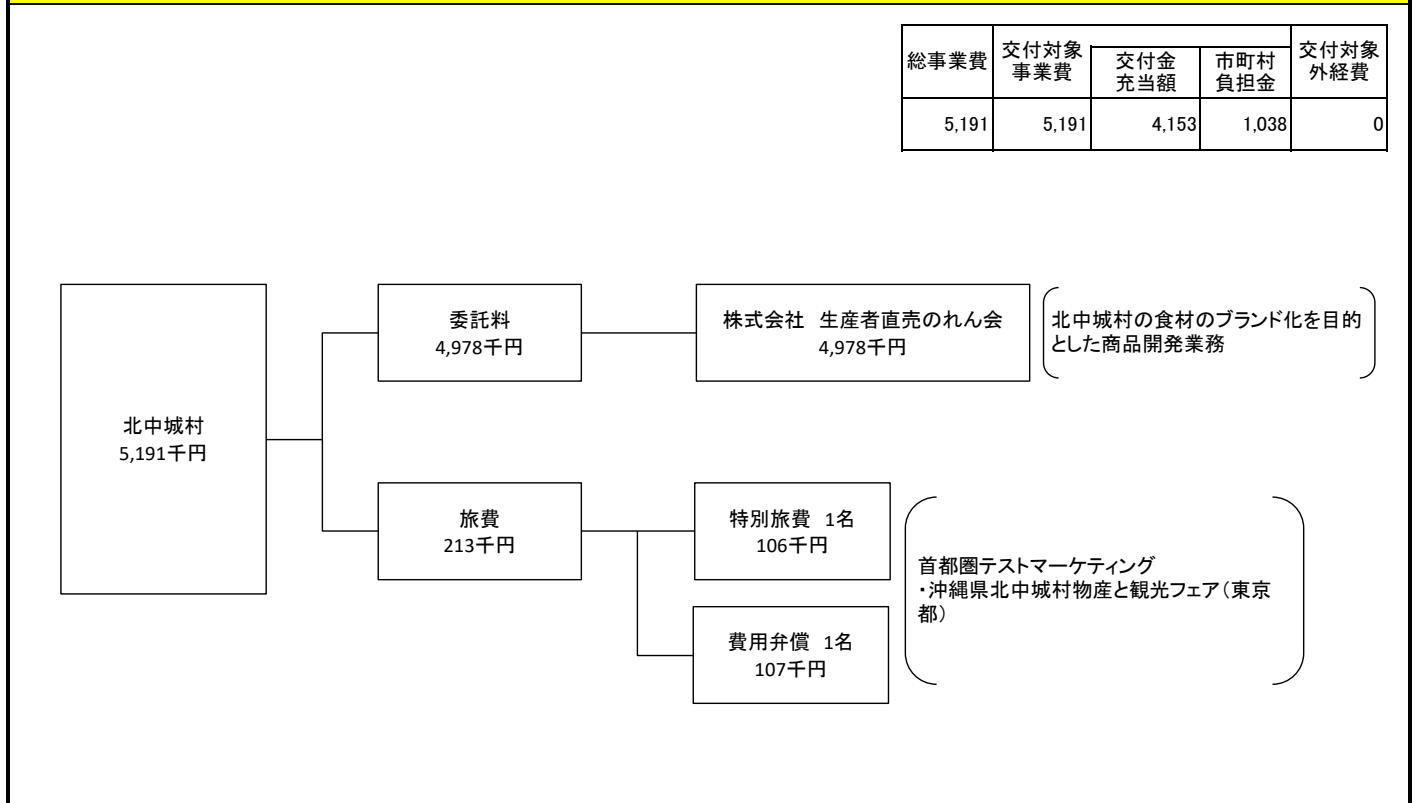
資金の流れ、点検、費用	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地域経済に精通する商工会を補助先とすることで、商工会のネットワークを活かす事ができ、地域事業者も安心して事業に係ることができるため選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については事業計画に即した予算計上がなされ、計画に即して予算執行がなされている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担も10%以上あり、妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		北中城村					
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	北中城村の特産品であるアーサ(ヒトエグサ)とは別の新たな食材を活用した商品開発やテストマーケティングを行うとともに、既存商品のブラッシュアップを行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(a) 当初予算額	19,800	16,200	9,440	9,677	5,188
	(b) 予算現額	29,700	22,032	10,488	12,373	5,214	
	(c) 増減額(b-a)	9,900	5,832	1,048	2,696	26	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	29,700	22,032	10,488	12,373	5,214	
	B. 執行済額	27,488	19,247	7,753	10,329	5,191	
	うち交付金充当額	21,990	15,397	6,202	8,263	4,153	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	92.6%	87.4%	73.9%	83.5%	99.6%	
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏におけるテストマーケティングに伴う旅費実績に伴い26千円の増額補正を行った。 ・不用額23千円については、委託料の実績に伴う執行残によるものである。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	開発した特産品取扱店の維持・開拓	目標	()	()	(開拓)	(維持・開拓)	
		実績			1店舗開拓	6店舗の維持・開拓	
	新たな食材を活用した新商品の開発	目標	()	()	(調査及び検討の実施)	(開発)	
		実績			調査及び検討の実施	開発	
新商品及び既存商品のテストマーケティング	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで開発した商品を物産展等でPRしたことで、6店舗において商品取扱いを継続することができた。 ・北中城村産パッションフルーツを村内事業者に提供することで、事業者の創意工夫による新たな新商品を開発することができた。 ・東京都内において、アーサを使った既存商品やパッションフルーツを使った新商品のテストマーケティングを実施することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	当事業における開発商品取扱店舗数	目標	()	()	(3店舗)	(6店舗)	()
		実績			6店舗	16店舗	
	新たな食材を活用した新商品の開発	目標	()	()	()	(1商品)	()
		実績				11商品	
	首都圏におけるテストマーケティング	目標	()	()	(3店舗)	(2商品)	()
		実績			6店舗	4商品	
	【参考指標】北中城村ブランド商品販売額(食品類)	目標	()	(1,500千円)	(-)	(-)	(2,500千円)
	実績			4,686千円	1,377千円	2,406千円	1,717千円
	【参考指標】北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)	目標	()	(500千円)	(-)	(-)	(800千円)
実績			1,000千円	1,425千円	-	0千円	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・【北中城村ブランド商品販売額】の食品類については、これまでアーサ(ヒトエグサ)を原料とした商品開発を行っていたが、不漁による原料の確保や原価等の調整に苦慮したことから、生産廃止となった商品があり、H30には販売額を下回ったものの、新たにパッションフルーツを使用した商品開発に取り組んだことで、成果目標を一部達成した。 ・【北中城村ブランド商品販売額】の雑貨類については、オリジナルガラス玉の商品を販売していたが、制作にかかる費用等が販売単価を圧迫したため収益が上がりず、生産終了となった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、不漁による生産量の不足が懸念されることや、高額な原材料の販売価格への転嫁等により、安定した販売体制が整わないことにより生産終了となった商品がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、ピューレ状に加工することで、商品化しやすいメリットがあるが、村内での生産量が少なく原料の確保が課題である。 <p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルガラス玉については、商品の売上げは順調だったものの、制作に手間がかかることから収益が上がらず、生産を終了している。 	<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、原料確保および価格調整等に苦慮している中で、継続した商品のブラッシュアップ化を図る必要がある。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、原料の確保が必要となるため、生産者や関係機関(漁業組合、JAおきなわ等)との連携強化、事前調整により、生産量の向上、販路の調整等により、原材料の確保に努める必要がある。 <p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益が伸び悩んだことから、本商品の販売を取りやめる結果となった。

今後の取り組み方針
<p>【北中城村ブランド商品販売額(食品類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーサ関連商品については、本事業で開発した既存商品のブラッシュアップ化による安定した販売体制を支援する。 ・パッションフルーツを活用した商品開発については、商品加工するためのパッションフルーツの確保及びパッションフルーツピューレの増産に取り組む。 <p>【北中城村ブランド商品販売額(雑貨類)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルガラス玉の販売については販売事業者の経営圧迫に配慮し、生産終了とする。 <p>【地域ブランド事業の取り組み方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は関係機関との連携が好調な食品類、特に「パッションフルーツ」の商品開発について、取り組みを強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと判断する。 ・不用額は5%以内であり、適正な規模であったと判断する。 ・費目・用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	